総務部長	企画課	
	課　長	報告者

会　議　概　要

会議名称	人権尊重の明るい伊那市づくり審議会
日　　時	平成２８年２月２３（火）　午後１時３０分～３時１０分
場　　所	５０１会議室
欠　席　者	丸山　敞一郎委員　伊澤　芳宣委員

会議事項・概要

１　開　　会　　原総務部長

２　あいさつ　　野溝会長

昨今、世の中では、介護関係などでも嫌なニュースが連日のようにマスコミを賑わせている。伊那市では幸い現在大きな問題はない。どこであっても不思議ではない世の中。今日は、人権について学びたい。

３　協議事項

（１）平成２７年度人権関係事業重点事項等事業報告について　〔幹事説明　概要〕

①市民課

重点項目・国際化に対応した外国人住民との共生について

市民課に特設窓口を設け、業務時間内においてポルトガル語通訳を配置。

平成 27 年 4 月から平成 28 年 1 月まで、相談者 1 日平均 17.6 人、件数は 24.7 件。

②社会福祉課

重点項目・犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を築くための取組み

・犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支える地域の取組み

・誰もが認め合い、等しく参加でき、自分らしく安心して暮らすこと

実績　・社会を明るくする地域づくり大会は、伊那市と南箕輪村の共同開催、参加者 178 人

・就労支援による一般就労移行実績 20 人

課題　・民生委員や学校ＰＴＡなど参加者が固定傾向にあり、一般の参加者の拡大について

・福祉避難所の開設及び運営に関する体制等の整備

・平成 28 年 4 月から施行の障害者差別解消法施行に伴う体制の整備

③子育て支援課

重点項目・幼児期の人権感覚の育成（園児対象）

・自らの人権感覚の向上と幼児期の人権感覚の育成（保護者・保育士）

・児童虐待への対応

実績　・平成 27 年度の虐待通告は、心理的虐待が一番多く、次いでネグレクト、また、虐待者は実母、実父の順である等

課題　・外国籍保護者に対しては、言葉が通じず、十分な意思疎通が図れない

・虐待の早期把握と的確な対応により、被害の最小化と抑制を図っているが、個人情報の提供範囲について、個人情報保護との関連でルール化が困難となっている。

④健康推進課

重点項目・精神保健事業・ＨＩＶ感染者対策・虐待予防事業計画

実績　・こころの健康づくりでは、サポーター研修会を 2 地区・1 事業所で開催

課題　・地域での自立した生活・積極的な社会参加といわれるが、実際には、無理解や偏見を含め地域社会の現実には厳しいところがある。本人、家族に対する生活能力のリカバリーの支援が望まれる。

・妊娠期から虐待リスクを抱え子育てをしている家族に対して、各関係職種でチームを組み、必要に応じ早期支援の実施と検討を行う継続的な関わりが必要である。

⑤高齢者福祉課

重点項目・啓発活動、権利擁護等の推進・高齢者の安心安全を守る人材の育成

・高齢者の生きがいづくり、啓発活動、権利擁護

実績　・高齢者に対する、権利侵害の予防や対応を専門的に行なった等

・認知症サポーター養成講座は 12 回 244 人。認知症高齢者を地域で見守るサポーター養成

課題　・認知症の高齢者の増加が見込まれる中、地域の理解の促進や見守りなどの協力体制づくり

・一人暮らし高齢者や、身寄りのない高齢者などの増加に対応する支援体制の強化

⑥商工振興課

重点項目・相手の立場で考え、行動できる人権感覚を身につけるための職場環境づくり

・企業内指導者の養成事業の推進を図り、すべての差別解消のために企業全体で人権教育にあたる。

実績　・企業訪問による啓発活動 130 社

課題　・企業人権教育推進研修会以外の研修会への企業の参加が少ない。

・企業への情報提供や企業人権への理解。

⑦学校教育課

重点項目・人が人として、尊重される人権文化の構築

人権同和問題を学習者自身の課題として位置づけ、その教育の推進を図る。

教育活動を通じ、発達段階に応じた人権感覚を培う。

実績　・各小中学校の取組について

課題　・小中学校の指導の連携

・学校間や学級間の同和指導内容のばらつきと、同和問題の重要性を理解と扱いの難しさ

⑧生涯学習課

重点項目・「共に生きる心」を醸成し、人権尊重社会を築く実践力を高める

人権尊重の精神の育成を目指した講演会等の開催

学校人権同和教育と社会人権同和教育の学社連携による人権同和教育の推進

実績　・公民館の取組ほか

課題　・講座において、参加者を増やすことが出来たが、内容や方法、時期、広報など検討し、さらに参加者を増やす。

・平 28 年度は、伊那市人権同和教育推進協議会として、伊那市学校人権同和教育指導計画書を作成予定。

⑨企画課

重点項目・人権花運動、人権フェスティバルの開催
・幼少期からの啓発
・職場・家庭・地域において男女が共に活躍できる社会の実現
・外国人が伊那市で暮らしていけるための支援

課題　・人権同和問題に関する情報収集、提供、関係部局間の連絡調整など

≪質　疑≫

委員：全国人権同和教育研究大会があり、伊那市から大勢参加したことを聞いた。同和問題は根深い問題であり、すぐ解決はできない。2 月 20 日に信濃毎日新聞に、長野市内の 60 歳の女性が 60 歳代の男性から、差別を受けた末に暴行を受けた記事を見た。
安曇野市においての研修会で、部落民は誰が命を守ってくれるのかという話になった。長野県連として、行政に対応をお願いしていきたいので協力していただきたい。

会長：全国人権同和教育研究大会に参加した。基調講演では、若い先生が、子どもの時から苦しんだことが分かる。悩んでる方がいるのかと感じた。

委員：伊那市は献身的な面もあり、皆さんに理解してもらっていると感じるが、北信は差別のはがきや文書、電話での嫌がらせなどある。

会長：東信、北信は未だ問題が大きい。

委員：企画課に追加願いたい。保育園の幼少期からの啓発。人権擁護委員が、今年度は保育園での人権教室を「たぬきのしっぽ」という演劇で行っている。今年度は、竜東と富県保育園で行い、毎年 2 園ずつ啓発に伺う予定。

委員：色々なところで色々な取組を行っている。公民館の人権講演会に参加したが、小さい地区でも 50 名ほどの参加があり、教育事務所の先生の講話であった。名前の呼ばれ方など、身近なことから入ったが、人の感じ方それぞれだと思った。参加者が固定化されているが、新しい方も 1 人や 2 人いた。声をかけて少しでも多くの人に来てもらう取組をしていきたい。

委員：外国籍ではないが、父が日本人、母が外国籍の児童がいた。親子のコミュニケーションがうまく図れない実情がある。細かいニュアンスが伝わらないので、通訳を介し気持ちを分かってもらう必要があるのかと感じた事案がある。
障害者差別解消法が 4 月から施行される。合理的配慮について、支援学級の生徒の登下校を例に出すと、親が責任を持ち、安全を確保する依頼をしている。合理的配慮からすると、そういうことから差別されないということは、なんらかの配慮を学校でしていく必要が出てくるのか、学習を深めていく必要を感じた。
児童養護施設がある。虐待、ネグレクト、育児放棄の行動など、愛着障害からくる特異な行動について、カウンセラーや心理士など呼んで、研修を深めているが、さらに継続していかなければならないと感じている。
11 月の全国人権同和教育研究大会の基調講演は、深く受け止めないといけない。

会長：子どもの支援について、虐待の関係で資料があるが、対応はどうか。

子育て支援課長：子ども相談室での対応。個別の事案への対応方法で、各事案に応じ、ケース会議を持って検討して対応している状況である。

（２）その他

４　認知症への理解と取組について（高齢者福祉課　中村保健師）

認知症に関わる者がどのくらいいるか・・・3 択

全国で、65 歳以上～認知症の診断がある方・・　1/12　1/6　1/４

全国で、85 歳以上で認知症の診断がある方・・　1/8　1/6　1/4

認知症の気づき、味付けが変わってくる、冷蔵庫に同じものがある。ゴミが溜まってくる。小銭が溜まってくるなど。身の回りを見てみることも必要。

ごみの話、伊那市でもある。ごみが出せなくなり、たまってきてしまったう状態かもしれない。こういう段階に気づき、ごみみを一緒に出すサポートがあれば、普通の生活を送っていたかもしれない。認知症サポーター講座。1 時間半ほどの講座。ＤＶＤや寸劇、学校などでも取り入れたり、公民館でも是非利用してもらいたい。

地域包括支援センターでお年寄りについてなんでも相談窓口になっているので利用願いたい。

伊那市で住み慣れた伊那市で住み続けてもらうように事業を展開している。

「おしゃべりカフェ　オレンジ」という、認知症に関して、悩んでいる方など、誰でも気軽に行け、アドバイスを受けられる場所になっている。お茶を飲みに来るだけどもよい。市内 4 か所で開催している。

（質疑）

委員：ＤＶＤを見て、寂しいとか気の毒な気持ちになる。子育て支援課が関係するが、最近子どもを虐待する映像を見た。伊那市の資料８Ｐ虐待の人数が年度毎に記されている。表は、年によって変化しているが、件数は減少していかない現状がある。７Ｐの対象に児童相談所や警察があるが、児童相談所が行ったときに、現場をみられないから大丈夫だろう、警察も何かなければ動かない状況。この辺の見方や考え方変えていかないといけない。今迄と違った視点で実情を掴めるような対策が大事になる。思い切ったことを行わないと件数は減らない。子育て支援課というわけでなく、今日ここに出席している皆さん、各課課長など、協力してもらえるような市民みんなが入って立ち向かって、問題解決を見つけてと解決にならない。虐待ゼロにしていく活動をしていってもらいたい。伊那市は、「子育てしやすいまち」で全国１位やその位の評価を受けているので、現状打破できる虐待を見破る、子どもを守る観点で取り組んでいってもらいたい。

会長：情報共有シート　期待する

委員：たまに、仕事で保育園に行く。保育園では、子どもの安全を考えている。助けて一緒に行こうというところが見られる。先生方が見守っていると思う。小学校にも続いていく環境になればよい。体力的に弱い子どもがいた時の話。リレーの時に一番早い子どもとコンビを組み、走った。結局１位にはなれなかったが、とても頑張った。みんなが優しい見守る気持ちになれば、虐待は起こらない。優しさを育てていけたらよいと感じた。

委員：最近新聞で、虐待している親をとりあげた小児科の医師の記事を見た。どんなに虐待した親でも、目の前にしたら、ここまでよくやったと責めずにまず褒めている姿があった。話をし

やすくなる。行き詰まり、誰にも相談できなくて、どうにもならなくて、虐待を起こしてしまう親がいるんだと思った。間に入って気づいてやる人が増えていくような、話がしやすい世の中になるとよいと感じた。

副会長：高齢者の対応で、母親との会話が強いかと感じ毎日反省している。時として、親も子ども同じ扱い。忙しい中でも、謝りの言葉を入れながらも、１人ひとりの心に気をつけながら生活していきたい。

５　閉会　　丸山副会長